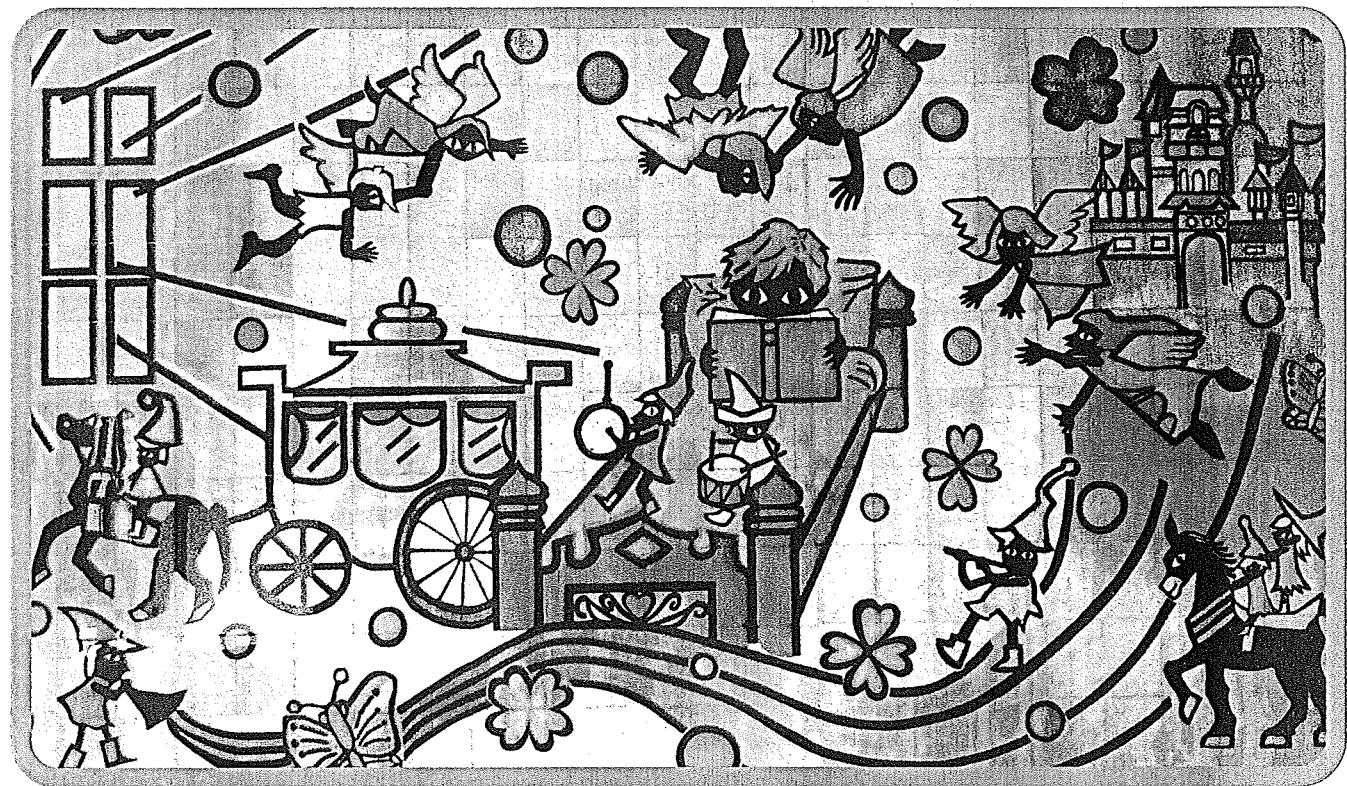


【参考】広島県教育委員会開発教材集等 掲載事例内項目例

冊子名	掲載項目
1 「心に響く道徳学習教材集」 (平成 12 年 3 月)	(例) 「地域を教材にした道徳学習の展開 (小学校)」 —手作りの資料で不とう不屈の心をはぐくむ—
	1 地域を教材として取り入れること 2 自作の道徳資料を使うこと 3 葛藤場面で役割演技を取り入れること 4 各教科や特別活動との関連 5 道徳学習指導案 (1) 主題名 (2) ねらい (3) 資料名 (4) 学習指導過程 6 道徳資料
2 「心に響く道徳学習教材集 小学校低・中学年用」 (平成 14 年 3 月)	(例) 「ぼくは鉛筆 (低学年)」 —生活の中で育てる 物を大切にする心—
	1 道徳学習指導案 (1) 主題名 (2) ねらい (3) 資料名 (4) 授業の展開例 2 道徳資料
3 「心の元気Ⅰ」 小学校版・中学校版 (平成 15 年 3 月)	(例) 「菊の花【高学年 3 - (1)】」 —視聴覚機器を活用した取組み—
	1 道徳学習指導案 (1) 主題名 (2) ねらい (3) 資料名 (4) 授業の展開例 2 道徳資料 3 活用に生かすための実践報告 (1) 主題の設定 (2) 指導過程の工夫 (3) 発問の工夫 (4) 児童の反応 (5) 実践者からの一言
4 「生徒指導充実のための 道徳教育実践事例集」 (平成 16 年 2 月)	(例) 「手の中のダイヤモンド」 友達を信頼する 小高 2 - (3)
	1 道徳学習指導案 (1) 主題名 (2) ねらい (3) 資料名 資料の概要 (4) 学習指導過程 2 実践報告にみる留意事項 (1) 資料・題材について (2) 指導過程の工夫 (3) 発問の工夫 (4) 児童の反応 (5) 授業後のフォローアップ

# 心に響く道徳学習教材集



平成12年 3月

広島県教育委員会

# 地域を教材にした道徳学習の展開（小学校）

## — 手づくりの資料で不とう不屈の心をはぐくむ —

### 1 地域を教材として取り入れること

子どもたちの問題行動が多発する中で、その要因の一つとして、社会の価値観が変容し、「共同体としての意識の欠如」「見て見ぬ振りする大人」などの増加など、地域の教育力の低下が指摘されている。しかし、その反省から、様々な地域において、「地域に子育ての力を取り戻そう」とする傾向が見え始めている。

さて、地域を素材として取り上げることは、次のような教育的効果があると考えられる。

- ① 子どもたちが地域を見直し、ふるさとのよさを発見できる。ふるさとに誇りをもつことができる。
- ② 「どこか遠くの出来事」「自分たちとは関係のない人」ではなく、身近な問題として学習に対する興味・関心が高まる。
- ③ 取り組みの過程で地域の協力を得ることにより、学校と地域との連携が深まる。
- ④ 結果として「開かれた学校」「地域・保護者とともにある学校」として、教育活動を推進することができる。

豊かな自然、そして人、地域の中には様々な素材が満ちあふれている。子どもたちも地域の一員として、地域に深くかかわり合いながら、よりよい生き方を模索させたい。

### 2 自作の道徳資料を使うこと

自作の道徳資料の効用については、様々な論があるが、子どもたちの実態に即した学習内容を提供できることもその一つである。

学校や家庭などの身近な生活場面の出来事の一コマを取り上げることもある。地域の自

然、建物、人物を取り上げることもある。いずれにせよ、子どもたちの身近にある素材を通して、思考力、判断力、行動力、及び興味・関心の度合いなどの実態をふまえた道徳資料を提示することにより、より効果的に道徳的価値を深めることが望まれる。

次に、自作の道徳資料「馬の叫びが聞こえるか」を通して考察する。

本校の子どもたちの実態の一つとして、しんどいことから逃げたいとする傾向が見られる。自分の夢の実現のため、目標達成のためには、それなりの努力が必要である。しかし、子どもたちには、目標が達成できたときの華やかさは見えても、その過程における地味な努力は見えていない。

そこで、努力する過程が見える道徳資料、そして子どもたち自身で価値葛藤がしっかり出来る道徳資料を用意することが必要となる。本稿の道徳資料として取り上げた登場人物は、校区内で常に顔を合わせる友だちのおじいさんである。身近な地域の人材を教材化することで、子どもたちの学習への意欲は一層高まるにちがいない。

自作の道徳資料は、読み物だけに限らない。普段の子どもたちの生活の中にも見つけることができる。大切なことは、子どもたちの実態をいかに把握し、何が道徳資料として活用できるのかという教師自身の感性や探求心、向上心こそが重要であるということである。

### 3 葛藤場面で役割演技を取り入れること

指導者としては、道徳資料を葛藤的活用として扱った場合、主人公の心が揺れ動く場面において、子どもたちに心の内面をしっかりと見つめさせ、様々な価値を出し合い葛藤さ

せ、よりよい価値に気づかせていきたいところである。

役割演技というのは、道徳資料の中の登場人物になりきり、即興でドラマを展開することである。その場の状況を把握しやすい、臨場感に浸りやすい、などの効果をもたらすが、登場人物の姿を借りて学習者が本音を語れる（心の開放）ということが最大のメリットであると考える。

役割演技を可能にするために、次の点を大切にしたい。

#### ① 学級づくり（学級経営）を大切にする

学級の中に、子どもたち一人一人の活躍する、かけがえのない場があるということ。学級は、自信と誇りをもって生きている一人一

人の集合体であることを大切にしたい。

② 学級経営の中に様々な表現活動を取り入れ、子どもたち一人一人の心を開く  
心を開くことにより、てらいなく自分を主張することが可能になる。

③ 発達段階や学級の実態を考慮し、演技の形態を工夫する

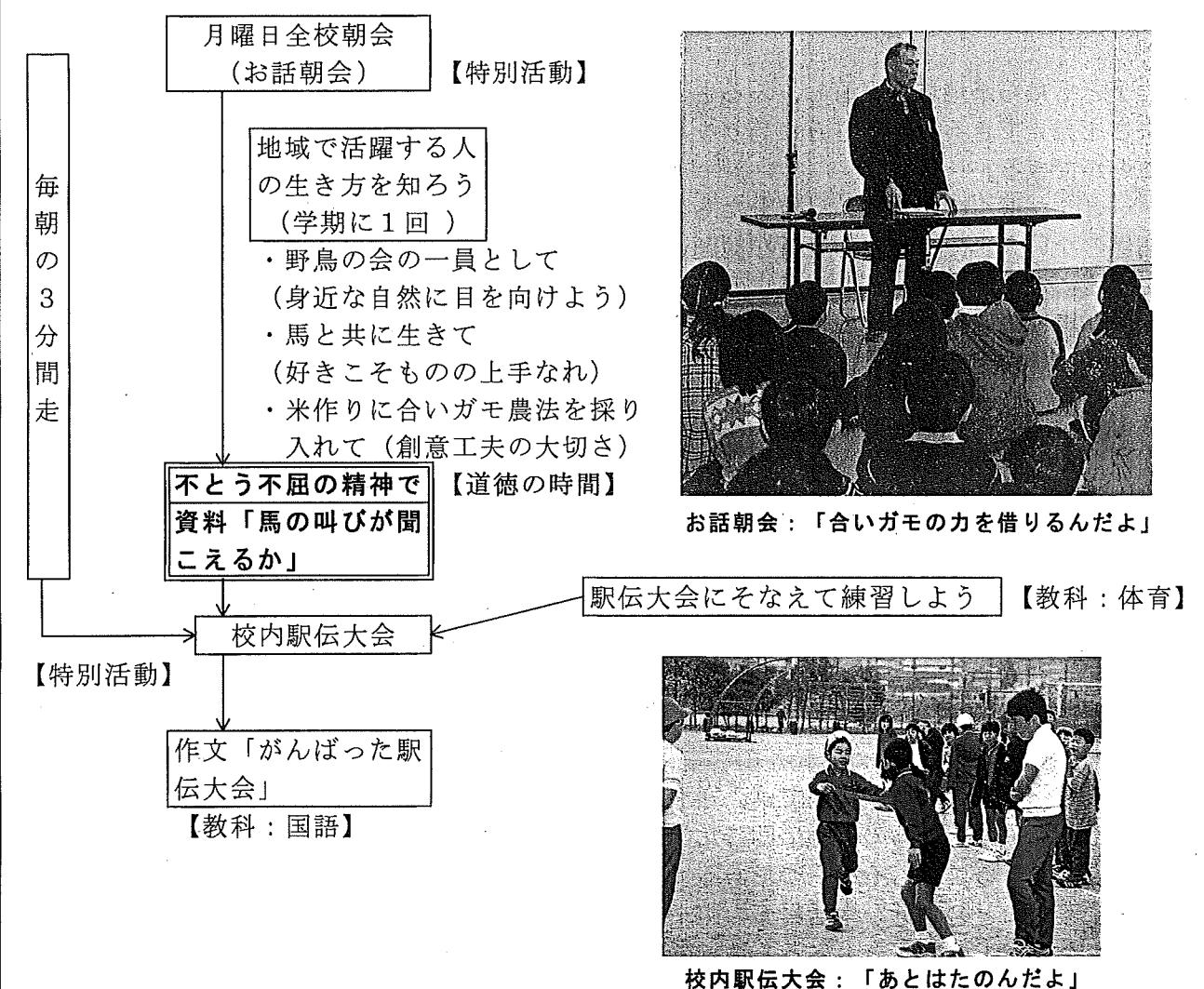
はじめから高度なやり方を要求せず、子どもの実態に即した設定を工夫していく。

### 4 各教科や特別活動との関連

道徳の時間の学習を各教科や特別活動と関連させて位置づけてみよう。

校内駅伝大会を、例に取り上げてみたい。

#### <学習の流れ> (各教科や特別活動との関連)



厳冬期における校内駅伝はつらいものである。雪混じりの天候の中で繰り返される練習、高学年としての責務の遂行など、しんどい状況から逃げ出したいと思う気持ちは多分に起ころるにちがいない。そのような練習時に、

「自分の目標にむかい、くじけないで努力しよう」というねらいで道徳の学習を関連的に仕組んでいく。学習を通して気づいた道徳的価値を、駅伝大会という体験活動を通して一層深めることができるだろう。さらに、国語科への関連や発展学習も可能である。

道徳の時間の年間指導計画を立てるとき、いつ、どのような学校行事があるか、また、いつどのような教科学習があるかを考慮することも必要である。

学校行事あるいは地域行事との関連学習は取り組みやすいが、道徳の時間と体験学習の違いについては、留意しなければならない。

#### (4) 学習指導過程

	児童の学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	1 心を開く。	○ 楽しい音楽にのって、思いきり体を動かそう。	○ 心身を開放し、子どもたちの心の内面が出やすい雰囲気を作る。 ・リズム感のある、楽しい音楽を用意する。 ・教室から出てオープンスペースを使用する。
展開	2 補助資料により概要を知る。  3 資料「馬の叫びが聞こえるか」を基に考える。 (ここからは教師の語りによる内容提示とする。)	(福永さんは、どんな仕事をしている人か、だいたいの様子を知ろう。)  ○ 先生に、試験を受けさせてほしいと頼む福永さんの思いを考えよう。 ・何とか受けさせてほしい、絶対に合格するように頑張るから。 ・どうしても受けないわけにいかない。馬との約束だから。 ・馬がかわいそうだ。 ◎ 兄弟子に「お前なんかに出来るわけがない。」と言われた時の、福永	○ 補助資料「おはよう日本 馬の脚を守る」により、概要を知らせる。(簡単な説明) ・装蹄師という仕事の中身 ・仕事への福永さんの思い ・馬のケガが完治し、喜びが広がる表情の場面を強調する。 ○ 資料内容をしっかりと把握し教師の語りで場面を展開する ○ 資料を一度に提示しない。(分割提示) ○ 必死で頼み込む福永さんの気持ちに共感させる。 ○ 児童全員が3人組(福永さんと兄弟子二人)になり、それぞれのグループごとに役割

#### 5 道徳学習指導案

- (1) 主題名 不とう不屈の精神 [1-(2)]  
(2) ねらい より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する。

- (3) 資 料 「馬の叫びが聞こえるか」  
(自作資料)

補助資料：NHKテレビ  
「おはよう日本 馬の脚を守る」  
(4分)

	<p>さんの心の中をのぞいてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こんなにつらい毎日だ、もうやめてしまいたい。</li> <li>・今年だめでも、何年かするとまた受験できるよ。</li> <li>・ここまでがんばったんだ、もういいよ。</li> <li>・あれだけ頼み込んだんだ。後には引けないよ。</li> <li>・自分が決心したことなんだ。最後までがんばり抜くぞ。</li> </ul> <p>○ 夢がかなったときの福永さんの気持ちを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・うれしい。これで装蹄師になれるぞ。</li> <li>・馬が喜んでくれるぞ。</li> <li>・途中で止めないでよかったです。</li> <li>・これからも腕をみがいてがんばるぞ。</li> </ul>	<p>演技を行う。教師は、この間どのような価値葛藤がなされているか把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 次に、何組かがパネラーになる。パネラー以外の児童は演技を見終わってから、自分の思いを語る。（価値の類型化を図る。）</li> <li>・本音が語れるように、教師はどのような意見に対しても共感的なまなざしを送る。</li> <li>・もし自分が福永さんだったらという考え方を、大切にさせる。</li> <li>○ 価値葛藤をしっかりとさせることにより、よりよい価値に気づかせる。</li> <li>○ 「勉強を止めたときはおしまいよ。」という言葉の重みに気づかせる。</li> </ul>
終 末	<p>4 自分の生活を振り返る。</p>	<p>○ しんどいこと、つらいことを乗り越えた思いを出し合ってみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水泳記録会への挑戦。つらかった練習に打ち勝ち、自己最高記録を出したこと。</li> <li>・陸上記録会への挑戦。1000メートル走の最後の150メートル。自分との戦いだった。</li> <li>・学習発表会の劇の練習。セリフが覚えられなくて投げ出したかったが、最後までやりきった。</li> <li>・笛で吹けなかった曲が、夏休みの間毎日練習して、ついに吹けるようになった。</li> </ul> <p>○ 「よく頑張ったね。私ってなんてすばらしい。」など、私から私へのメッセージを送ろう。</p>

## 6 道徳資料

### 「馬の叫びが聞こえるか」

カツカツカツ

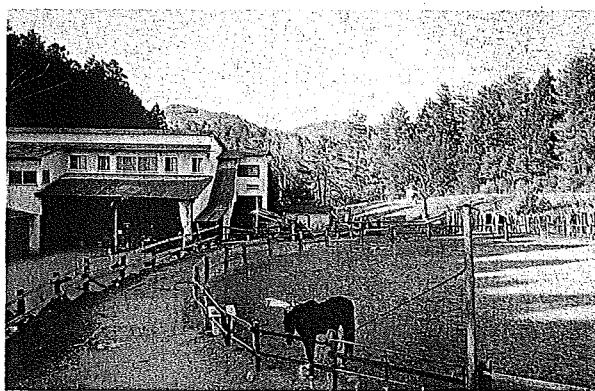
牧場に、軽やかなひづめの音が響きます。さっそうと歩く馬の様子からは、つい先ほど、片足を引きずるようにしてここにやってきた姿は、想像すらできません。福永守さんの顔に、うれしそうな笑顔が一気に広がっていました。

「馬が喜んどる。これがあるけえやめられんのよ。」馬の蹄（爪）は一月に1センチほど伸びます。このため、蹄を一月に一度はきれいに削り、蹄鉄という金具を足の裏につける必要があります。この仕事をする職人のことを装蹄師といいます。福永さんは『現代の名工』にも選ばれた、日本一といわれる装蹄師なのです。

福永さんのもとには、全国各地から、故障した足を治しに馬が連れられてきます。懇願されて、遠く北海道の牧場まで出かけることもあります。

「骨折以外の足の故障なら、すべて装蹄でなおすことができる。」これが装蹄に自分の人生のすべてをかけてきた、福永さんの持論です。事実、福永さんは、馬が2、3歩目の前を歩くだけで、足のどこに故障があるのか、そのためにどんな治療（蹄の切り方、蹄鉄のつけ方）をすればよいか、一目でわかるといいます。

馬はどんなに痛くても苦しくても、思いを言葉で伝えることはできません。馬の悲しみを、足の動きから一瞬にして読みとる技は、どのようにして生まれたのでしょうか。



福永治療牧場

装蹄師になろうと福永さんが決心したのは、昭和24年、ちょうど二十歳の頃でした。

ある日のこと、福永さんは飼っている馬を連れて、近くの鍛冶屋に出かけました。

「おじさん、蹄鉄をやり変えてもらえんかのう。」「この馬か。おとなしゅうさせとれよ。暴れたらかなわんけえのう。」

装蹄が始まりました。ところがどうしたことか、日頃おとなしい馬が大暴れです。

「どうなつとるんじや。」

怒った装蹄師は、狂ったように手綱を馬にたたきつけました。

「やめろ、やめてくれ。痛がっとろうが。へたな装蹄をするけえ暴れるんじや。」

「何をなまいきな。文句があるなら、お前がやってみい。」

傷ついた馬を引きながら帰る福永さんの心の内に、固い決心が生まれたのはこの時でした。

「やってやる。ぜったいに装蹄師になってやる。お前にぴったり合う装蹄をしてやるぞ。馬を泣かせることなんかするものか。」

当時装蹄師が免許を得るために厳しい国家試験に合格しなければなりませんでした。

しかも弟子入りした先の先生から、数年間の修行をした後に、許しをもらって初めて受験するのが常識でした。ところが福永さんは、弟子入りして1年もたたない内に、試験を受けさせてほしいと先生に頼み込んだのです。先生は怒り、そしてあきれ果ててしまいまし



蹄鉄を打つ



工具は全て手作り

た。1年やそこらで受かるわけがないのです。さらに腹を立てたのは、兄弟子たちです。何年も修行してきたにもかかわらず、まだ一度のチャンスも与えられていなかったのですから、無理はありません。

しかし、叱られても断られても「受けさせてほしい。」と頼み込む福永さんの熱意に、先生も根負けし、とうとう受験を認めてもらえることになったのです。

その日から、福永さんの猛勉強が始まりました。先生は、技術を親切に教えてくれるわけではありません。

「技は、おまえが勝手に盗め。」  
蹄鉄を打つ先生の動きを、必死になって頭に焼き付け、体を通して確かめては、一つ一つの技を自分のものにしていきました。

みんなが寝静まった後も、明け方まで専門書を読み、ノートをとる日が何日も続きました。昼間の仕事の疲れで、手に持っている本を思わず落としてしまうこともありました。ボロボロに疲れた体に、

「お前のような新米に、合格できるわけがない。」

兄弟子たちのこんな言葉が、矢のようにつきさりました。

「もう、やめてしまおうか。」  
ともすれば固い決意もくずれそうでしたが、そんな福永さんの脳裏に浮かぶのは、暴れていやがったあの馬の悲しいひとみでした。

こうして、弟子入りしてわずか1年半。努力が実って、福永さんはついに免許を手にすることができたのです。

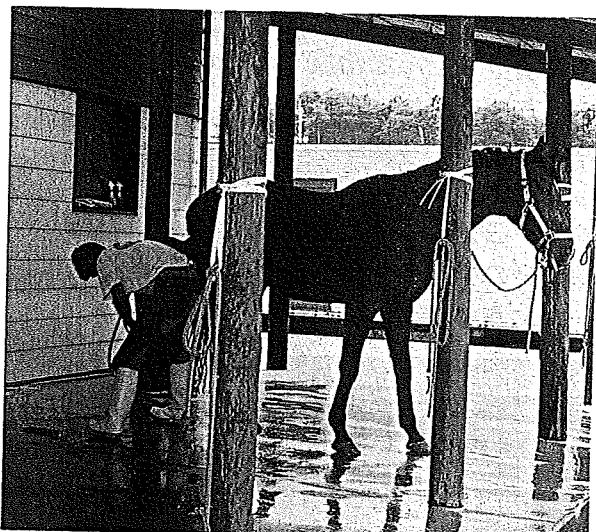
その後も、福永さんの仕事への情熱は決して衰えることはありませんでした。衰えるどころか、ますます技に磨きをかけていきました。病気やけがで死んだ馬の足を譲り受け、解剖もしました。足のつくりを自分の目を通して知るためです。深夜、馬と同じ格好をして床をはい回り家族をびっくりさせたこともあります。すべて、馬の体を知るために、馬の心を知るために努力だったのです。

「勉強を止めたときがおしまいよ。」この思いは70歳になった今も、決して衰えることはありません。

今日も、福永さんの治療牧場に、傷ついた馬がやってきました。

「おうおう、痛かろうに。今にわしがなおしてやるぞ、待っとれよ。」

軽く馬の首をたたきながら、福永さん的一日が始まりました。



厩舎で馬の手入れ

# 心に響く 道徳学習教材集

小学校低・中学年用



広島県教育委員会

# ぼくはえんぴつ（低学年）

## — 生活の中で育てる 物を大切にする心 —

- (1) 主題名 物を大切にする心 [1-1] 関連項目 [4-1]
- (2) ねらい 物を大切にし、身の回りを整えようとする態度を養う。
- (3) 資料名 「ぼくはえんぴつ」
- (4) 授業の展開例

	学習活動	主な発問と児童の心の動き	留意点
導入	1 連想ゲームをおこない、自由な発想をもつ。	○連想ゲームをしましょう。	○リラックスさせ、楽しい雰囲気をつくる。
展開	2 資料の前半部分を聞き、内容をつかむ。  3 使いはじめのえんぴつの気持ちを考える。	○えんぴつの『ぼく』は最初は、どういう気持ちだったんだろう。 ・大切に使ってくれてうれしい。 ・ふでばこにていねいに入れられて気持ちがいい。	○新しいえんぴつ等の文房具を準備し、資料への興味・関心を高める。  ○えんぴつの『ぼく』の喜びにしっかりと、共感させる。
開拓	4 資料の後半部分を聞き、内容をつかむ。		○けしごむ、ものさし等の文房具を準備し、資料への興味・関心を高める。
	5 机の上から落ちたえんぴつの気持ちを考える。	○えんぴつ、ものさし、けしごむになって思ったことを演技し、発表しよう。 ・もっと大事につかってほしいよ。 ・なかなか拾ってくれないんだよ。 ・かなしいよ。 ・いやだよ。	○役割演技（えんぴつとけしごむ、またはえんぴつとものさし）をとおし、自分の考え方、感じ方について見つめさせる。  ○どうしてそういうふうに感じるのかもたずねる。
	6 えんぴつの心の変化を考える。	○えんぴつの『ぼく』は、なぜ、なみだがでてきたのでしょうか。 ・ふまれると思ったから。 ・捨てられると思ったから。 ・だれも気づいてくれなかつたから。	○えんぴつの『ぼく』にしっかりと共感させる。
終末	7 教師の説話を聞く。	・自分の生活を振り返り、物を大切にしようと思う。	○物を大切にすることのすばらしさを、教師の体験から語る。

# ぼくはえんぴつ

## 【前半】

ぼくは、金色のえんぴつです。  
なつみちゃんがつがつています。  
はじめは、じんながやうにつがつてくれるかしんぱいでしたが、やでば  
りにいねいに入れられて、大切につかわれました。  
ぼくは、なつみちゃんといつしょに  
学校に行っています。  
なつみちゃんは、  
「ピカピカ光るんだ。」  
と、ぼくを友だちにいつもからいました。  
ぼくは、ちよつぱりじまんしたい気持ちでした。



## 【後半】

今日もいつものように、なつみちゃんと学校へ行きました。四じかん  
目のはじまりのチャイムがなりました。四じかん目は、なつみちゃんの  
すきな体育のじかんです。なつみちゃんは、ぼくをやでばりにかたづけ  
ずに、あわててとびだして行きました。

「あつ、落ちるー。」  
と、思つたどんだんに、ぼくはつくえの上から落ちてしましました。  
まわりをよく見てみると、ゆのれしゃかしだらが、いろやかなものが  
ありました。

やがて、チャイムがなり、なつみちゃんたちが教室にかえってきました。なつみちゃんは、ぼくたちに気がつかずに、きゅう食のじゅんびに  
とりかかりました。

ぼくたちは、これがひつたひつなるのだろう・・・と思つて、な  
みだがでました。

文部科学省委嘱  
平成14・15年度広島県児童生徒の心に響く道徳教育推進事業

「児童生徒の心に響く教材の活用・開発」研究報告集Ⅱ

**小学校 心の元気 Ⅱ**



広島県教育委員会

# 菊の花 【高学年3-(1)】

## 一 視聴覚機器を活用した取組み 一

(1) 主題名 自然のすばらしさ [3-(1)] 関連項目 [3-(2)]

(2) ねらい 自然のすばらしさを知り、自然を大切にしようとする心情を育てる。

(3) 資料名 「菊の花」

(4) 授業の展開例

	学習活動	主な発問と児童の心の動き	留意点
導入	1 植物を育てた経験を出し合う。	○植物を育てて、上手に花が咲いたり、実がなったりしたことがありましたか。	○今まで自分たちが育ててきた植物の写真を掲示し、そのときの気持ちを思い起こしやすくする。
展	2 資料を読み、よしえや健一の行動から気持ちを考える。	○だめかも知れないのに、肥料をやり世話をし続けたりしたよしえと健一の気持ちを考えてみましょう。 ・折れた菊が心配でたまらない。 ・菊の命を生かしてやりたい。 ・鉢を落とし守りきれなくて悪かった。  ○「新しい芽が出ているよ」とさけんだとき、どんな気持ちだったのでしょうか。 ・よかった。 ・すごい。生きていたんだ。 ・菊もがんばっていたんだ。	○台風の時の二人の行動や、これまで植物の世話をしてきた経験からも考えさせる。  ○うれしいという気持ちだけでなく、植物の力や生きようとするエネルギーを感じ取れるように、補助発問をしていく。
開	3 今までの自分の生活を振り返る。	○この菊の話のように、自然をすばらしいなと思ったことはありませんか。	○身近にある自然に目を向けるよう言葉をかける。
終末	4 教師の話を聞く。	○高山植物チングルマのお話をします。「1ふみ10年」と言われていること、自然を守るのは私たちだという自覚を持つこと、その気持ちは日常から始まるなどを含んだ話。	○チングルマの写真を掲示し、雰囲気を伝える。

## 菊の花

「菊は、だいじょうぶかな？」

はげしく雨がやつてきました。台風がやつてきているようです。よしえと健一は、学校で育てている菊のことが心配になつてきました。

春にさし木をし、五センチぐらいに育つた菊をはちに植えかえました。毎日水やりをしてきた菊が、こしの高さまで大きくなっています。もう少しでつぼみができます。そんなときに風でたおれてしまつては、今までの苦労が水のあわになります。

「学校へ行ってみよう。」

一人は雨の中を走つて行きました。すると、はちのそばにあります。校長先生でした。一人は、校長先生といつしょに、はちを風の当たらない校舎やの中にうつしました。大きなはちは、一人で持つと重くて、運ぶのに時間がかかります。一つ一つ動かすしか方法がありません。学年の人數分あるはちを動かし続けて、どのくらい時間がたつたのでしょうか。あともう少しと思つたとき、手がすべつてしまいました。あつといつ間に、はちがころがつて、菊のくさが折れてしまいました。よしえも健一も、いつしようけんめい菊を守ろうと思つてやつたところに、折れてしまつたのです。(じうじょうう)

と思っていると、校長先生がそえ木をしてくださいました。

は、次の日、さわい台風のひ書は少なく、みんなの菊はやじでした。たんにんの田中先生は、「よく気がついて、みんなの菊を守つてくれたね。おかげで大切な菊の命が守られたよ」と言ってほめてくださいました。でもよしえと健一は、ただ一つだけ折れてしまつた菊が心配で心から喜べませんでした。

「もう、だめなんじやない？」

「この菊は、花がさかないよ。死んじやつたみたいだ。」

よしえと健一は、そう言いながらも、やっぱり毎日水をやつたり、肥料をやつたりと世話を続けていました。ほかの菊がどんどん大きくなり、つぼみをつける中、そえ木をした菊だけは、みずぼらしく見えます。

(守つてあげられなくてうめんな)

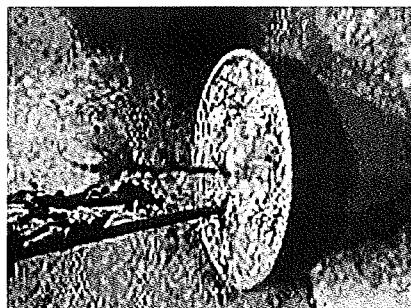
という思いで、運ぶのにくたびれていたけれど、一つ一ついねいにあつかえばよかつたと、こうかじばかりです。

そんなある日、いつものように菊の世話をしていたよしえと健一は、今までになかつものを発見しました。折れたくさのそばに、小さな小さな芽が出ていました。それが、生まれたばかりの赤ちゃんのように、伸びようとしているのです。

「新しい芽が出てるよ。」

二人は、思わずさけんでしまいました。

よしえと健一は、新しい芽を出し、がんばりはじめている菊が、とてもすがすがしいものを感じました。今もさわやかな日差しを浴びながら、その菊はすくすくと大きくなっています。



# 活用に生かすための実践報告

## ◎「菊の花」

### 1 主題の設定

自然と人間のかかわりは、何気ない普段の日常生活の中に数多くある。特別に山や海・川に行かなくても、家の周りや町の中に、自然を感じる光景はたくさんある。そして、自然から、人間は多くの恵みや憩いなど目に見えない恩恵を授かっている。

そこで、子どもたちが、意識せずに享受している自然のすばらしさを感じ直したり、自分たちが行っている栽培活動も自然を大切にしていく行為につながることを考え直したりする機会になるよう、本資料を作成した。

自然を守る・自然とかかわる行為は、努力や根気のいるものである。そして、それを支えるのは、生命を愛しく思う心や自然のすばらしさを感受する心である。自分たちもそのような心を持っていることに気付き、自分たちのできる範囲で、自然とかかわっていきたいという気持ちをはぐくみたい。

### 2 指導過程の工夫

導入で、今まで自分たちが育ててきた植物の写真や観察記録の絵を提示する。その時の自分の気持ちと重ね合わせながら、よしえや健一の気持ちを考えやすいようにした。

また、終末でも、視聴覚機器を使い、視覚的に理解することができるよう工夫した。

### 3 発問の工夫

「新しい芽が出ているよ。」とさけんだときの気持ちを中心発問で問う。このとき、二通りの発言が考えられる。一つ目は、植物の再生力・生きる力のすごさに感動した気持ち、二つ目は、あきらめずに毎日毎日世話をしてきた行為の結果に対する喜びの気持ちであ

る。そのため、「努力が報われたという行為の結果としてうれしい」という気持ちだけでなく、植物の生きようとする力や内在するエネルギーなども感じ取れるよう、補助発問をしていく。

### 4 児童の反応

(今までの自分を振り返ったときの発言)

- ・花を育ててもなかなか芽が出ないから心配していたら、一気にたくさん出てきてとってもうれしかった。
- ・妹のホウセンカが、すごくしおれていたけれど、水をあげたらうそみたいに生き返りびっくりした。
- ・ヒヤシンスを育てたとき、みんなのはさいたのに、ぼくのだけさかなくて心配したことがある。いつものように世話をしていたら、花がさいてとってもうれしかった。
- ・朝顔を育てたとき、朝顔のつるがグングン、グングンのびていったので「植物ってすごい。」と思った。
- ・家で小さな木を育てていて、葉がいっぱい落ちてかかると思ったけれど、また元気に成長を始めたときはおどろいた。

### 5 実践者からの一言

視聴覚機器を活用することが、この実践では有効であった。

主人公と同じ感動を追体験した後で、今までの自分を振り返ると、意識していなかった自然のすばらしさや自然から受ける恩恵を感じ直すことができた。

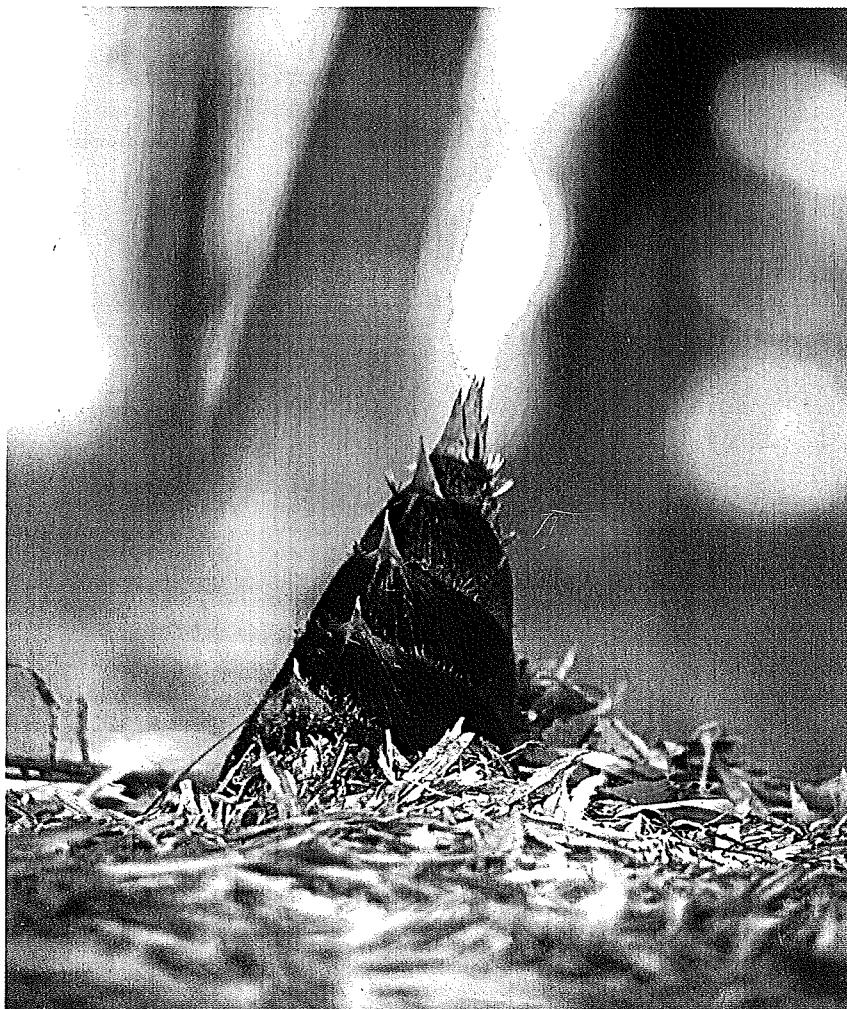
関連させて、総合的な学習の時間や特別活動（学校行事）などで実践し、気持ちを高めていきたい。

（古市小学校 藤本嘉江）

平成14・15年度広島県道徳教育実践研究指定事業

生徒指導充実のための

# 道徳教育実践事例集



広島県教育委員会

(1) 主題名 友だちを信頼する [小学校高2—(3)]

(2) ねらい 互いに理解し合って、眞の友情を育てていこうとする心情を育てる。

(3) 資料名 「手の中のダイヤモンド」(出典:明日をめざして6年 東京書籍)

#### 資料の概要

詩の形式をとった資料である。前段は家族や友だちに親切にされた時に感じる優しい気持ち、中段は友だちに裏切られた時の憎しみについて語り、最後に、自分の心のあり方で本当にわかり合える友だちが見つかると語っている。資料を通して、信頼することが人間関係の基礎であり、友情を育むもとになることに気付かせていきたい。

#### (4) 学習指導過程

	学習活動	主な発問と児童の心の動き	留意点
導入	1 「友だち」という言葉から思い浮かぶことを発表する。	○「友だち」という言葉からどんなことが思い浮かびますか。 ・よく遊ぶ ・いっしょにいて楽しい ・何でも相談できる	○イメージマップという様式でワークシートに記入させる。
展開	2 資料を読んで心に強く残ったところを書き写す。  3 心に残ったところについて話し合う。	○心に強く残ったところはどこですか。 ・人をにくんだりすることで、自分までいじめてはいけないね ・人から気に入られようとする生き方をする必要はないんだ ・ダイヤモンドは君の手の中にある ○「人をにくんだりすることで、自分までいじめてはいけないね」のところで、どんなことを思いましたか。 ・人をにくむといやな気持ちになる ・人をにくんでいると暗い気持ちになる ○「ダイヤモンドは君の手の中にある」とは、どんなことをいっているのでしょうか。 ・わかり合える友だちは身近にいる ・自分にとって大切な友だちはすぐそばにいる ・信頼できる友だちはきっと見つかる	○心に強く残ったところをゆっくりとワークシートに書き写しながら、思いを深めさせる。 発表の際には理由を述べさせる。 ○いくつかを取り上げて話し合う。 ○感じたことを自由に発表させ、友だちについて思っていることを自由に語り合えるようにする。 ○「ダイヤモンドは…」というところを書く児童が多いと予想される。 ○友情は、自分自身の心の持ち方にかかっていることに気付かせる。 ○友だちについて膨らんだ思いを赤ペンで囲んだり書き加えたりさせる。
終末	4 「友だち」について思うことを書く。	○「友だち」という言葉からどんなことが思い浮かびますか。 ・自分のことを心配してくれる ・はげましてくれる ・大切な人 ・信じることが大切	
	5 絵本の読み聞かせを聞く。	○絵本「ともだち」を読みます。今日学習したことを考えながら聞いてください。 ・友だちっていいもんだ ・自分にもこんな友だちがいる	○ゆっくりしみじみと読み聞かせる。

## 実践報告にみる留意事項

## 1 資料・題材について

6年生になると思春期にさしかかり、友だち関係も複雑になってくる。信頼と友情に裏付けされた人間関係を築くことは、この時期の児童が心穏やかな生活をおくるためには大切なことだと考える。詩の形式をとった資料から、児童それぞれの感覚で友だちについての思いを膨らませてほしい。

## 2 指導過程の工夫

友だちについて思い浮かべることをイメージマップに記入することで、自分自身の友だちに対しての思いと向き合わせたいと考えた。導入時にイメージマップに書いた内容と、資料を読んで話し合った後で書き加えたイメージマップとを比べてみると、友だちについての思いが膨らんだり深まったりしていることがわかる。終末では、「ともだち」（出典：レイフ・クリスチャンソン 岩崎書店）の絵本を読み聞かせ、信頼できる友だちがいることがどんなに素晴らしいことなのか、心に余韻を残しながら学習を終えた。

### 3 発問の工夫

「心に強く残ったのはどこですか。」という発問においてはたっぷり時間をとり、理由付けをしながら発表させていった。その展開の中から「ダイヤモンドは君の手の中にあるとは、どんなことを言っているのでしょうか」という主発問へ導いた。この発問について考えることを通して、信頼できる友だち関係を築くのは、自分自身の心の持

ち方にかかっているということに気付かせたいと考えた。

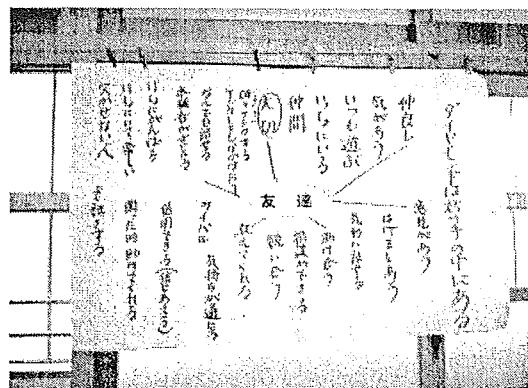
#### 4 児童の反応

- ・人に無理に合わせるまでしんどい思いをするのは、本当の友だちではない。
  - ・ダイヤモンドのように価値があり、自分にとって大切な人がそばにいるのはいいなと思った。
  - ・ダイヤモンドのような友だちは、いつかきっと自分のそばに現れると思う。

今まで漠然としか感じたことのなかつた友だちの存在について、改めて深く考えることができたようだ。友だちとのきずなは自分自身がつくっていくものなのだと気付く児童もいた。

## 5 授業後のフォローアップ

友だちに対する思いとして発表したこと  
を書き留めたイメージマップは、授業後、  
教室に掲示している。日々学級の児童がこ  
の掲示を見ながら、これからも友情を育ん  
でいってほしいと願っている。



(大野西小学校)